

2021 年度入試 刑法C日程 出題の意図

問題 1 は、刑法各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1) は、公務執行妨害罪と業務妨害罪の適用領域を区別するにあたり重要な概念であり、各論の講義において必ず講じられるものである。両罪の保護法益に関する正しい理解を背景に、学説の内容およびなぜそのような対立が生じているのかに関する基本的な理解を問う。(2) は、刑法 244 条に関する基本的知識を確認するものである。親族特例の趣旨に関する正しい理解を前提に、その体系的な位置付けに関する対立、判例の立場が理解できているかを問う。

問題 2 は、違法性の意識という刑法総論上の典型論点を問う事例問題である。刑法 38 条 3 項に関し、「相当な理由」として違法性の意識（の可能性）を要求することにつき、その体系的な位置付けに関する学説の対立を踏まえ、一方で判例がどのような立場に立っているかに関する正しい理解を背景に、専門家の意見を聞いた結果法的解釈を誤ったケースに対し適切に当てはめができるかを問うている。